

歴史を受け継ぎながら、新たな町の風景を描く

五個荘和田町は、和田山と愛知川の間に位置し、和田山の東の山麓に広がる。人口は96人、38世帯で、このうち2世帯は外国人世帯である。高齢化率は約38.7%で五個荘地区でも高齢化率が高い。自治会加入率は100%の比較的小規模でまとまりがある自治会である。

1. おしょうらいさん

五個荘和田町（以下、和田町）の歴史上の大事件が、永禄11年（1568）9月12日の織田信長の近江侵攻である。和田山城築城より落城に至るまで、この城に屯した兵士は6000人ともいわれ、その内2000人余りの兵が戦死や病で亡くなつた。

これら兵士の鎮魂のため、和田町では毎年お盆の8月15日に和田神社の行事として「おしょうらい」（お精霊）を営んでいる。

「おしょうらいさん」について、和田町の最高齢の中村喜蔵さん（95）にお話を伺つた。

和田山は南山と北山の2つの頂があり、南山の山頂にあった、江戸時代の『近江興地志略』に記されている銘木、「和田の笠松」から30mほど下った「お精霊岩」の前で日没を待つて元火を炊く。

この元火を提灯に移し和田神社の「宮世話」と呼ばれる神社の役と、「前髪」とよばれる小学校高学年から中学生の年齢の子どもが捧げ持って、北山の精霊道を下山する。

そして「お旅所」の坂下で松明に元火を



和田神社

移し、燃えさかる松明をかざして「おしょうらい」と叫びながら拝殿を7回かけ廻つた後、坂段をかけおりて鳥居前の氏子の松明に火を移す。

15本から20本の松明を持ち、行列しながら歩き、字の東を流れる横戸井川にかかる精霊橋まで行って、松明を燃やし切つて終わる。

おしょうらいは、普通は寺院で行うものであるが、和田のように神社の伝承行事として精霊送りがされているのは大変珍しいことだと思われる。

「おしょうらいさん」がいつから始まったのかは定かでないが、織田信長の近江侵攻から約450年、和田神社の明和元年（1764）12月3日の建替えから数えても約250年に及ぶ。

しかし、一度だけ中止になった。

大正8年（1919）の8月15日は、未曽有の大雨だったので止むなく中止にしたところ、その年に、原因不明の疫病で8人が亡くなつた。

この事態に、「おしょうらい」を中止したためお怒りにふれたのではないかと考え、以来、現在までどんなに雨が降っても必ず毎年続けられているのである。



精霊橋で松明を燃やし切る

なお、「おしょうらいさん」は令和2年度から後述の神社改革より、役員さんが奉仕されることになった。

2. 焼祭（やけまつり）

近代の和田町の大事件が、「和田の大火」である。

明治18年（1885）の5月2日（土）の昼下がり、午後2時頃に地蔵堂の横の屋敷にあった家から出火した。一人暮らしのお婆さんが、七輪をひっくり返してしまい出火したという。

この日は伊庭の坂下しを見物に出掛け、ほとんどの人が留守にしていた。そのため、地蔵堂から和田山の方向に燃え広がり、お寺をはじめ多くの家が焼失した。

これを「和田の大火」とよび、この大火を教訓に、「焼祭」を行うようになった。

「焼祭」は、大火の前日の5月1日の夜に、和田神社に左右50灯ずつの百灯をあげ、太鼓と鐘を鳴らして防火祈願をする。

大火翌日にあたる5月3日の朝6時に自治会長のもと、団長以下15名の特設消防団が出初式を行う。消防団の出初式は普通1月に行うが、和田町ではこの日に行うのである。

地蔵堂の前に集合して防火訓練（放水訓練）を行う。出初式が終わった後は、和田神社に参拝してお酒を供え、直会（なおりい）で頂く。

「焼祭」がいつ始まったのかは定かではないが、自治会長の中村稔さんは「火災以降となれば、100年以上は続いているのでは」と話す。地蔵堂（手前）。後ろの白い壁の建物が歓天喜地



3. ふれあいサロンと喜楽会

和田町の人々の、命を尊び、暮らしの安寧を願う気持ちは、今日の高齢者の暮らしにも向けられている。

75歳以上の方々を対象としたふれあいサロンは、和田町公会堂で年6回開催されている。スタッフを含め、25~26人が演芸やゲーム、食事等を楽しむ。始まったのは平成の五個荘町時代で、約四半世紀続いている。

2~3年前からは、「喜楽会」という60歳以上の女性の会ができ、和田町公会堂で毎月開催されている。毎回15~16名の方が集まり、折り紙や趣味の活動などを行っている。

4. 歓天喜地（かんてんきち）

平成28年（2016）夏に、京都出身のミュージシャン・ラジオパーソナリティの北村謙さんが、古民家（昭和7年（1932）建設）を改修して、音楽や芸術などを楽しんで交流する「歓天喜地」をオープンした。

最近では、桂九雀さんの落語と北村謙さんの音楽がコラボする「落語・音楽会」が催され、時々レコーディングも行われている。和田町の住民にはイベントの割引券が配られ、和田町の新たな風景になっている。

5. ご神木に見守られ

和田神社の本社天満宮玉垣前にある、ご神木が、和田町を見下ろす。

和田町も少子高齢化が進み、神社にまつわる歴史的な営みをどう受け継ぐかが課題だ。

自治会長の中村さんは、令和元年（2019）に神事の運営にかかる見直しを行い、氏子の当番制から氏子総代と役員による6名の運営体制とした。

歴史を継承する努力と新たな営みが溶け込みながら、新たな和田町の風景が描かれいく姿を、ご神木は見守り続けているだろう。



ご神木